

# 各地のたより



## 民有林行政の 勉強会開催

〈愛媛森林管理署〉



国有林野事業が一般会計化してまもなく三年が経過としていますが、当署で

はこれまで以上に民有林行政を理解し各種施策を展開していくために、民有林行政に関する勉強会を三月二四日に開催しました。講師には愛媛県農林水産部森林局の山内達文局長をお招



愛媛県山内森林局長の講演の様子

きしました。  
山内局長からは、平成二八年  
度から開始される  
新たな「えひめ  
森林・林業振  
興プラン」(第  
五次愛媛県総合  
林政計画)につ  
いて愛媛県の森

林・林業・木材産業の現状や新たな振興プランに基づく今後の各種施策等の展開方向などの説明がありました。その後の質疑応答では、主伐・再造林、林業事業者の育成など民国連携して取り組まなければならない林政課題の質問がありました。

今回初めての試みでしたが、民有林行政の知識を得る有意義な機会になるとともに、新たな振興プランが四月より動き出すことから非常にタイムリーな勉強会になりました。

## 請負事業体を 対象とした救急 対処訓練の実施

〈四万十森林管理署〉



三月一〇日、請負事業体を対象とした救急対処訓練を四万十町の四万十清流消防署で開催しました。当日は、

四万十署管内で生産事業を実施している請負事業者から現場の作業員を中心に約五〇名が参加しました。訓練内容は、災害が発生した場合の対処法(緊急連絡方法、応急手当法、ヘリを要請する場合の現場での留意点など)で、講義と心臓マッサージ、被災者を運搬するための担架をブルーシートで作成する方法など



ました。当日は、四万十署管内で生産事業を実施している請負事業者から現場の作業員を中心に約五〇名が参加しました。

ブルーシート担架での運搬の様子

消防署からは、山での災害は場所を特定することが難しい場合が多いので作業開始前に作業場所の情報を提供してほしいなどの要望がありました。

消防航空隊からは、今年度、林業の現場からの要請

が非常に多くすでに一三件（例年は一〜七件）となっていること、その上で、ヘリが現場を特定するために必要な情報の発信の方法や地上で準備すべきことなどについて説明を受けました。

四国局管内だけでなく全国的にも災害が増えている林業の現場において、災害

を出さない継続した努力が

必要ですが、それと同時に万が一、災害が発生した場合の対応も重要であり、当署では当日の講義の要点をとりまとめ各請負事業体に指導することになっています。



三月二二日、入野松原保全推進協議会と連携した一斉清掃とクロマツの植樹を実施しました。

当日は、入野松原周辺の地域住民の方々をはじめ幡

収集されたゴミ



東森林組合、高知県環境共生課、同林業事務所、同土木事務所、黒潮町役場などから約五〇名、森林管理署職員と合わせて総勢七〇名が参加しました。

一斉清掃では、林内に投棄されていたプラスチック類、缶・ビン類はもとより、

生活ゴミ、家屋の廃材など、中にはバイク、冷蔵庫、洗濯機など大型のものも含まれていました。二時間程の清掃によって約八トンのゴミを集めることができました。参加者からは、「沢山のゴミが林内に捨てられていた。驚いた」「植えたマツが

その後、林

内三箇所、計一六〇本のクロマツの植樹を行いました。クロマツの苗木は、苗長が一メートルを超えるかなり大きなもので、植樹場所の目印とし

た。



「早く大きくなれ」と願いを込めて植樹されたクロマツ

早く大きくなって立派な松林になってもらいたい」などの感想が聞かれました。

当署では、今後も入野松原保全推進協議会と連携して、地域の皆さんと一緒に入野松原の保全活動を実施して行く予定です。



三月二十五日、高知県三原村榎郷山<sup>えのきょうやま</sup>国有林で列状間伐検討会を開催しました。

当日は、当署で素材生産を実施している林業事業者

や森林組合から約五〇名、各署等からも職員が参加し、総勢八〇名による検討会となりました。

午前中は、当署の請負生産事業（保育間伐活用型）箇所において、列状間伐を実施した箇所を見学し



列状間伐検討会の様子

ました。その事業地では繊維ロープを使って間伐材を集材しており、列状での間伐方法と併せて、集材方法

午後からは、会議室に場所を移して、実際に列状間伐の作業を行っている様子を撮影したビデオの上映と当署職員が九州森林管理局に列状間伐の現地調査に行つた時の報告を行いました。

その後の意見交換では、参加

者から列状間伐にするからコストを下げますではなく、列状間伐は作業効率や安全性の面で有効であるということが重要。」といったものや「四国の作業道ももっと広くできないのか。」といった意見も数多くでま

した。列状間伐は、これまで四国局管内でほとんど取り組まれていませんでした。情報が不足していて、実施するための課題も数多くあります。知見を蓄積し、課題を解決していき、林業事業者等情報交換しながら取り組んでいきたいと思いま

ました。加し、総勢七九名が参加しました。



四月二二日、安芸森林管理署管内西谷山国有林内（森林環境保全整備事業（保育間伐【活用型】）を

実行中）で、森林整備技術検討会（林業架線設備・集材技術現地検討会）を開催しました。当日は、九社の林業事業者から経営者、架線集材技術者、愛媛県林業研究センターのほか、局及び当署の職員も参加し、総勢七九名が参加しました。

最初に、署長から「本検 製造業労働災害防止規程」 現場を提供頂いた林業事業 いる、軽量で強度の強い織 最後に、総括森林整備官

討会を林業架線設備・集材 等の説明を受け、架線設備 体から、安全対策マネジメ 維(DS)ロープについて、 から「本日の検討会を機会

技術の向上、規則等に基づ 及び集材機の設置状況等 ントとして、林業コンサル 試供品を配布したうえで、 に、各事業体が架線技術力

く適正な架線設備の再確 確認しました。質疑応 答では、ジャストIIの使 タントの監査を毎年受けて その特性等の説明がありま の向上に努め、平成二八年

認、集材作業における安全 答では、ジャストIIの使 いること、月一回の安全懇 した。 度は災害のない一年となる

確保の知識習得の場とし 用経験がある事業者から、 談会、年一回の安全大会、 その後、参加者から、検 よう安全作業に従事してほ

てほしい。」との挨拶があ 本システムについて、一 現場毎のリスクアセスメン 討会の感想及び安全対策の しい」との挨拶で、検討会

り、続いて監督職員から現 本の搬器がエンドレス一 ト及び事業実行中は作業 取組等について発表しても を閉会しました。

地の概要説明を行いました 本で架設できるというメ 種別に毎日KY活動を行 業体とも若手の技 業体とも若手の技

た。 リットがある一方、リモ 明がありました。さらに、 しい現状も出され

午前中は、今回現場を コン・コンピューター制御 安全活動に関する取組の説 ているといった厳

請け負っている林業事業 ないので故障が多いといっ 明がありました。さらに、 しい現状も出され

体による、現地架線集材 デメリットもあるといっ 新たな取組として、グラッ プルによる単胴地曳き集材

システム(H型架線・本 た意見が出されるなど活 プルによる単胴地曳き集材 もこのような現地

線二本に各々ジャストII 発な議論が交わされまし 作業での作業員の労働負 検討会を開催して

搬器を搭載)の説明と当 た。 作業での作業員の労働負 検討会を開催して

署森林技術指導官による 午後からは、荷卸し場付 荷の軽減と、安全性の向上 ほしいといった要

「集材架線設備のチェック 近へ移動し、実際に架線集 作業を目的として、従来のワイ 望も上げられまし

現地検討会の様子

